

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

一車両間隔一

NO. 114



あんずは周辺が住宅地で（開所したころは林の中でした）、大通りから狭い道を入ったところにあります。あんずを利用しているご家庭には、いつも気を揉ませてしまっていて申し訳ありません。

前から来るクルマを見て、「ここですれ違えるかな？」「ここで止めて待ったほうがいいかな」と、自分のクルマの大きさと、空いているスペースに見当をつけて、「どうしよう…」と考えることが多いと思います。乗り慣れているクルマだと「だいたいこのくらい？」と見当をつけやすいですが、そうでないと「あの凹んだところにクルマを寄せられるかな～」と心配になります。クルマの車幅と道の端との車両間隔（車の前後左右の距離感）がつかみにくくですからね。

子ども達をクルマに例えると、その“車両間隔”が上手くとれない子がいます。一方通行の道やすれ違いやすい広い道なら上手に走れるけど、狭い路地や車線がたくさんある道では、前から来るクルマや隣のクルマにぶつかりそうになったり、ぶつかってしまったり。怖くて走れなくなってしまうこともあります。お友達と遊びたくて輪の中に入していくのですが、スペースを上手く使えず、ぶつかってしまったり、遊びを壊してしまったりする姿です。怖くて走れなくなってしまう子は、輪の中に入れなかったり、ひとりでいることが多くなったりします。大人がいないと不安になる子もいます。そして、相手との身体の距離感が上手くとれない、相手とのコミュニケーションでも、やりとりが硬くなったり、一方的になったりしがちです。身体の間隔（距離感）は、心の距離感や関わりの柔らかさにもつながっていきます。一緒に過ごしたい気持ち、遊びたい気持ちを成就させていきたいですね。

その車両間隔、どうやって育んでいけばよいでしょう？ ポイントは大きく2つです。

まずひとつは、小さいうちに、感覚遊びやいろいろな身体の動かし方、手先を使った遊びや作業を繰り返したくさん経験して、身のこなし方や、人やモノに合わせた力加減を学んでいくことです。あんずの活動の中では『揺らしっこ』や『ブランコ』『新聞紙遊び』『親子遊び』『粘土』『スライム』といった感覚遊び、朝の会でよくやる『トランポリン』『リンゴの木』等があげられます。また、身体を大きく使う運動課題も、自分の身体のサイズや動きをイメージして、設定に合わせて上手にこなしていく経験を重ねていくことができます。

ふたつ目に、集団や輪の中で上手に過し、楽しく終わる経験を重ねていくことです。折角お友達と関わりたくて輪の中に入ろうとしているのに、上手に交われないことで、自他共に笑顔になれないので、やる気、元気がなえてしまいます。お互いが懲りてしまう経験が重なり、相手との関係にも影響してしまいます。大人が仲立ちになって、“こうすればいいんだよ”と言葉をかけたり、目の前で見本を見せたりしながら、上手に関わり、上手に終われるようエスコートしていきます。感覚がつかめない中での失敗体験は、何度も繰り返しても、次の学びにはなりません。繰り返し一緒に取り組むことが、じつは近道です。心地よい成功体験に勝るものはありません。

どうして上手くいかないのか、できる人にはわからない。そして、何で上手くいかないか、どうすればいいか自分でもよくわからない。そんなことってありますよね。大丈夫！お手伝いします！「これを楽しめると、こんな力が育っていく」摩訶不思議を積み重ねましょう。（R7. 11）K

